

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 9 日

ぬくもりのうち保育株式会社  
ぬくもりのうち保育 綾瀬園 御中

〒 532-0011

所在地 大阪府大阪市淀川区西中島六丁目7番8号 7階

評価機関名 保育第三者評価 株式会社

認証評価機関番号  
電話番号 06-6195-2087  
代表者氏名 灘 広樹

機構 25 - 277



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者 (担当分野・評価者養成講習修了者番号)	担当分野	修了者番号
	経営	H1801008
	福祉	H2301054
	経営	H2101073
福祉サービス種別	小規模認可保育所	
評価対象事業所名称	ぬくもりのうち保育 綾瀬園	
事業所連絡先	〒	120-0005
	所在地	東京都足立区綾瀬 2丁目24-3 オランジェK 1F
	TEL	03-6240-7277
事業所代表者氏名	高山 晃弥	
契約日	2025 年 8 月 31 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 10 日	
利用者調査結果報告日	2025 年 12 月 9 日	
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 10 日	
自己評価結果報告日	2025 年 12 月 9 日	
訪問調査日	2025 年 12 月 10 日	
評価合議日	2026 年 2 月 5 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、利用者アンケート調査や職員自己評価の結果に加え、事前資料の確認、訪問調査当日の園内見学、場面の観察、経営層へのヒアリング、書類確認などを行いました。これらの集計は、Web形式のアンケート方式で実施し、匿名性を確保するため無記名としています。	

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2026 年 2 月 9 日

事業者代表者氏名 ぬくもりのうち保育株式会社 代表取締役 濱田 和人 印



1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)保護者とのパートナーシップを高める 2)一人ひとりに丁寧に寄り添う保育を行う 3)子育ての楽しさを共に分かち合い、共に成長する 4)子どもがその人らしく成長する保育を保育者と保護者で共に作る</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームワークを大切にし、協調性がある職員</li> <li>・子どもの気持ちをきちんと受け止め寄り添える職員</li> <li>・的確に状況を把握し、自分の役割を理解できる職員</li> <li>・柔軟性があり、臨機応変に考えられる職員</li> <li>・落ち着いた行動を心掛けている職員</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と共に子どもの成長を支える「伴走者」であるという自覚や使命感を持ってほしい</li> <li>・子どもの発達を理解し、できることを増やして子どもの自己肯定感を高めるという意識を持ってほしい</li> <li>・安易に子どもがすることを否定するのではなく、どうしたら肯定的な表現で伝えられるか、またその行動の原因は何か、広い視野で子どもの行動をとらえ、成長を考える向上心を持ってほしい。</li> </ul>

調査対象	調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。利用者家族19世帯に対し、16世帯から有効回答を得られました。
調査方法	利用者調査は、アンケート方式で行いました。事業所より保護者全員に案内用紙を配布して頂きました。アンケートは、Webアンケート形式で実施しています。なお匿名性を確保するために、無記名としています。
利用者総数	19
利用者家族総数(世帯)	19
共通評価項目による調査対象者数	19
共通評価項目による調査の有効回答者数	16
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	84.2

**利用者調査全体のコメント**

利用者家族19世帯に対し、有効回答16件で84.2%の回答率となりました。総合評価では、「大変満足」が14名(88%)、「満足」が2名(13%)という高い評価結果となっています。総合的なコメントでは、「子どもを大事に預かってくれて大変助かっております。」「職員の皆さんが、全ての子どもに対して愛情を持って接してくれていると感じます。」「本当にこの園に出会えてよかったなと思っています。細かいところまですべての先生が見てくれていて、とても安心して預けられます」「小規模保育園なので今年度で卒園になるのが寂しいくらい大好きな園です。」などの感謝のコメントが多数寄せられました。そのほか、「お迎えが被った時に玄関が狭いため外で待つことがあるので、対応していただくと助かります。」「おたよりは、アプリを活用できるといい」とのコメントも寄せられました。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	16	0	0	0
この項目では、「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「おうちでできない様々な遊びをしてくれています。」「きちんと自分の気持ちを言語化できるようになってきています。また、保育園に通いだしてから生活リズムが整いました。」「服を自分で着替えたり、保育園のご指導のおかげで、できることがふえています。」「などのコメントが寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	15	1	0	0
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「迎えにいくと自分の子供が大笑いしていることが度々あるので楽しいのだと思う」「毎日色々な遊びをしていただいて、いつも楽しそうに帰ってきます。お部屋での遊びは沢山の工夫をこらしていただいているのが感じられます。」「楽しい遊びをたくさん行っていただいています。」などのコメントが寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	15	1	0	0
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「園に慣れるまで自宅で使用しているのと同じミルクを用意してくれた」「お家では食わず嫌いなどで頑なに食べなかった食材を、給食では食べられているようです。食べてみよう！と意欲をわかせる給食なのだと思っています。〇〇が美味しかった、とたまに教えてくれます。」などのコメントが寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	15	0	1	0
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が6%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「夏の暑い日は外に出ることを控えられていると思いますが、熱中症にならないようどこかに行くのはいいかと思いません。また、園内の狭い空間にいると感染症とか集団感染になりやすいので、他の遊びの検討があると良いと思います。」などのコメントが寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	2	0	2
この項目では、「はい」が75%、「どちらともいえない」が13%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は13%という回答結果になりました。自由記述では、「交通機関の遅延で遅れた際も、快く対応してくださいました。」「相談に応じてもらえる感じです」などのコメントが寄せられました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	15	0	1	0
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が6%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「小さい怪我でも理由をそえて報告してくれる」「室内の棚には網が付いていて、安全管理がなされていると感じます。」のほか、「高い位置の備品はネットなどで対策はされていますが、地震等に備えて万全な対策をとってくれると安心です。」などのコメントが寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	16	0	0	0
この項目では、「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「土曜なので参加しやすい」「前もって都合に合わせて保護者参観の日程を組んでもらえるので助かります。」などのコメントが寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	16	0	0	0
この項目では、「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「いつも親身に話を聞いてくださってとても救われています。」「いつも様子を細かく教えてもらっています。」などのコメントが寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	15	1	0	0
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「見える範囲で汚いと思ったことはない。」「キレイな保育園と思いますが、夏の日には玄関の虫除け対策をしてくれると嬉しいです。」などのコメントが寄せられました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	16	0	0	0
この項目では、「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、特にコメントがありませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	16	0	0	0
この項目では、「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、特にコメントがありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	12	3	0	1
この項目では、「はい」が75%、「どちらともいえない」が19%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は6%という回答結果になりました。自由記述では、「そういったことがあまり起きない印象です。」などのコメントが寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	16	0	0	0
この項目では、「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「他の子に優しくしたことなども教えてくれるので、よく見てくれていると思う。」などのコメントが寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	15	0	0	1
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は6%という回答結果になりました。自由記述では、「特に問題を感じたことはない。」などのコメントが寄せられました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	15	1	0	0
この項目では、「はい」が94%、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は0%という回答結果になりました。自由記述では、「いつも事細かに今日あったことを教えて頂いています。」「どんな遊びをしたのか具体的に教えてくれると嬉しいです。」などのコメントが寄せられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	1	0	4
この項目では、「はい」が69%、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は25%という回答結果になりました。自由記述では、「不満は特にないです」「そのような状況になっていないので、分かりません。」などのコメントが寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	2	1	3
この項目では、「はい」が63%、「どちらともいえない」が13%、「いいえ」が6%、「無回答・非該当」は19%という回答結果になりました。自由記述では、「今の所、困ったことがない。」などのコメントが寄せられました。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	説明会や研修などで理念と基本方針を職員・保護者に共有し、実践につなげています 日々の保育実践に理念や基本方針を反映させるため、入職時オリエンテーションや研修を通じて職員へ理念・基本方針を説明し、理解促進を図っています。また、職員会議では理念の実現に向けて取り組むべき内容を共有し、職員間で話し合う機会を設けています。年度末には自己評価シートを用いて理念・基本方針の振り返りを行い、個々の職員が実践を見直す機会となっています。保護者に対しては、入園説明会や園見学、入園時の重要事項説明を通じて園の理念や方針を分かりやすく伝え、理解促進に努めています。	
	業務分掌規程により、経営層の業務内容と責任を明確にしています 園長・主任などの経営層は、園の目指す保育や方向性を職員に示す役割を担い、職員会議や園内研修を通じて継続的な共有をしています。また、職員が作成する指導計画が理念・基本方針に沿っているかを確認し、必要に応じて助言することで、保育実践が組織として一貫するよう調整しています。法人では、業務分掌規程を整備し、すべての職員の業務内容と責任を明確にすることで、園内の役割分担が円滑になるよう管理しています。さらに園長は保護者との個人面談に柔軟に対応し、園全体の方針が家庭にも適切に伝わるよう取り組んでいます。	
	重要な案件は法人本部の会議や園長会で段階的に審議・決定しています 重要案件は、法人本部の会議や園長会において審議・決定されています。なお、決定内容は、社内情報共有システム上で決裁手順や承認状況を確認できる仕組みとしています。あわせて、法人本部から園長会、リーダー会議、職員会議または朝礼・昼礼へと段階的に共有し、掲示や議事録の回覧により全職員へ周知しています。園内の重要案件については、主に昼礼や職員会議で検討・決定しています。保護者に対しては、園だよりや連絡アプリを通じて適切に情報提供をおこなっています。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者と職員の意向をアンケートなどで多面的に把握し、運営改善に生かしています</p> <p>保護者アンケートの実施や個人面談、送迎時の対話、連絡帳の活用など、多様な方法で保護者の意向を把握しています。直近では、「調理便りの表記方法の改善」についての要望があり、関係職員間で共有し対応しています。職員については、職員会議や毎月の個人面談、日々のコミュニケーションを通じて意見・要望を把握し、申し送り等で検討しています。怪我などで配慮が必要な状況が生じた際は、固定のクラス枠にとらわれず、安全を最優先に考えた異年齢間での柔軟な受け入れ態勢を整えています。</p> <p>行政や関係機関との連携により地域ニーズを把握しています</p> <p>自治体の保育指導担当者による巡回や自治体の連絡会、地域の園長会、児童対策地域協議会などに参加し、行政や関係機関からの情報収集に取り組んでいます。加えて、自治体からの情報提供をもとに、地域の課題や保育ニーズの把握をおこなっています。また、園長会などでの情報交換を通じて、区の受け入れルールの変更などの動向を共有し、地域における保育ニーズの高まりを把握しています。収集した情報は法人本部とも共有し、組織的に園運営に生かす体制を整えています。</p> <p>重要達成指標を定めた3カ年の中期計画を作成しています</p> <p>園が主体となって3カ年の中期計画を作成し、年度ごとにKPI(重要達成指標)として、園児充足率、園児数、職員定着率、保護者満足度、多文化対応の導入数を設定しています。これらの指標をもとに、園運営における目標管理をおこなっています。保育の全体的な計画や年間指導計画については、園長が中・長期計画を踏まえた内容となっているかを確認しています。さらに、事業計画の作成時にも環境分析を取り入れ、年度末には振り返りを実施し、次年度の改善につなげています。一方で、計画の進捗確認は年に一度振り返るのみとなっています。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

**法令や行動規範を共有し、職員の倫理意識を高めています**

職員として守るべき法・規範・倫理については、就業規則により各自が内容を確認できるようにし、日常的な理解の促進に努めています。また、法人の新人研修やコンプライアンス研修、マナー研修などを通して、職員の意識向上を図っています。必要事項の伝達や関連する事案が発生した際には、定例会議や昼礼などの機会を活用し、迅速に周知しています。さらに、法人では声掛けの仕方などを明示した行動規範を作成しており、必要に応じて園長から職員へ伝達することで、統一した対応につなげています。

**苦情解決と虐待防止の体制を整え、適切な対応につなげています**

苦情解決制度については、重要事項説明書に記載し、保護者へ内容を説明しています。受付担当者は園長、解決責任者は法人役員とする体制を整え、組織としての対応を明確にしています。意見や要望が寄せられた際には、職員に状況を確認したうえで、園長を中心に園全体で課題解決に取り組んでいます。また、虐待防止マニュアルを整備し、定期的な振り返りを通して職員の意識向上を図っています。あわせて、子ども家庭支援センターや児童相談所など関係機関との連携体制も整え、必要に応じた適切な支援につなげています。

**地域とのつながりを意識した情報発信と受け入れ体制を整えています**

地域の行事ポスターを園内に掲示し、保護者が地域活動に参加しやすいよう情報提供をおこなっています。また、ボランティア・実習生・職場体験の受け入れにあたっては、保育士実習受け入れマニュアル(園内職員用)を使用し、職員間で事前協議を行うことで、円滑な受け入れ体制を整えています。さらに、地域の園長会や児童対策地域協議会、要保護児童連絡会などに参加し、地域の福祉課題や支援ニーズに関する情報収集にも取り組んでいます。一方で、地域の福祉ニーズにもとづいた地域貢献などの実施はなく、今後に向けた取り組みが望まれます。

カテゴリ4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>避難訓練やヒヤリハット共有により、再発防止と安全意識の向上につながっています</p> <p>危機管理マニュアルを策定し、想定されるリスクに応じて対応の優先順位を明確にしています。また、災害への備えとして、火災・地震を想定した避難訓練をそれぞれ毎月実施するなど、年間計画に位置づけて継続的に取り組んでいます。緊急時の対策フローは事務所内に掲示して周知を図り、職員一人ひとりの役割を明確にしています。あわせて、提出されたヒヤリハットや事故報告書の内容は職員間で回覧して共有することで、再発防止と安全意識の向上につながっています。</p> <p>BCPの整備と引き取り訓練により災害時の対応体制を強化しています</p> <p>事業継続計画(BCP)は、法人が策定した危機管理マニュアルを基に整備しており、来年度に向けて法人主導で改定を予定しています。災害への備えとして、非常食や飲料水などの備蓄を1日分確保しています。職員に対しては、想定されるリスクを共有したうえで訓練を実施し、緊急時の対応力の向上に取り組んでいます。保護者とは、地震や災害時を想定した引き取り訓練を実施し、連携体制の確認をしています。また、事故発生時には法人本部へ報告書を提出し、再発防止に向けて連携した対応を進めています。</p> <p>個人情報の管理体制を整え、適正な取扱いに努めています</p> <p>個人情報の取扱いに関するマニュアルを作成し、職員会議などで周知を図っています。また、法人が実施するコンプライアンス研修では個人情報保護の内容を扱い、全職員が受講することで理解を深めています。さらに、職員の入退職時には情報厳守に関する誓約書を取り交わしています。書類管理については、保管期限を定め、適度に整理し、廃棄時にはシュレッダーを使用しています。加えて、機密性の高い書類は鍵付き書庫に保管し、デジタルデータは法人本部が一元的にセキュリティ管理を行うなど、多面的な対策を講じています。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 8/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

## カテゴリー5の講評

### 採用手法の多様化と人員配置の工夫により安定した職場づくりを進めています

職員の募集について、SNSやホームページを活用して求める人物像や保育理念、制度などを発信し、採用の幅を広げています。また、職員紹介制度を設けることで、園に合った人材確保につなげています。さらに、地方在住の応募者に対しては、リモートによる園見学や面接を実施し、応募のしやすい環境を整えています。加えて、全職員を対象に異動希望調査をおこない、法人本部と調整したうえで適切な配置に努めています。なお、キャリアパス制度は設けていませんが、園長向けの研修を法人主催で年間6回程度実施し、管理職育成を図っています。

### 園内研修と面談を通して職員の学びと成長を支えています

熱中症対策などをテーマとした職員会議や園内研修を実施し、日常業務に直結する知識の習得を図っています。また、オンライン研修や動画研修も取り入れ、全職員が受講できるよう勤務時間の調整を行っています。さらに、希望がある場合には非常勤職員も外部研修へ参加できる体制を整えています。年度初めには職員一人ひとりの目標を設定し、毎月1on1の面談を通して進捗の確認を行っています。年度末には自己評価シートを活用し、成果の振り返りと次年度の育成につなげています。一方で、個別の育成計画は確認できず作成までには至っていません。

### 休暇配慮と対話の機会を通して働きやすい職場づくりを進めています

シフト作成にあたって、有給休暇の希望をできる限り反映できるよう調整し、職員の働きやすさに配慮しています。また、意見を伝えやすい職場の雰囲気づくりを心がけ、職員面談や職員アンケートで把握した内容については、改善に向けて適切な対応に取り組んでいます。さらに、職員の働きがいや意欲の向上に向けたサポート体制を整えるとともに、休憩時間には自由に話ができる雰囲気づくりにも配慮しています。クラスを超えた係決めや行事・イベントの企画を通して、職員間のコミュニケーションの活性化も図っています。

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>小規模保育ならではのきめの細かさを活かし、保護者に寄り添った対応をおこなうことで、「共に成長を喜び合える関係を築き、保護者が子育てを前向きに楽しめる環境づくり」を目標としました。登降園時の対応を大切に、お迎えの際には小さなことでも園でのこどもの様子を丁寧に伝えるとともに、家庭での様子を聞き取る関わりを継続的に実施しました。怪我などで配慮が必要な状況が生じた際は、固定のクラス枠にとらわれず、安心して過ごせるよう0歳児クラスで受け入れるなど、個別の配慮をおこないました。また、突発的な土曜保育の受け入れにも柔軟に対応しました。さらに、保育参観については1日1家庭ずつの受け入れに変更し、家庭の事情に応じて参観の有無を選択できる形としました。こうした取り組みにより、保護者との良好な信頼関係を築くことができ、家庭での様子もより詳しく把握できるようになりました。その結果、保護者が抱える悩みや不安を共有する機会が増えたことで、精神的な負担の軽減にもつながったと捉えています。今後も引き続き、保護者に寄り添った丁寧な関わりを大切にしながら、こどもと家庭の状況に応じた柔軟な対応を継続したいと考えています。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>保護者に寄り添う姿勢を組織的な重点として位置付け、日常の丁寧なコミュニケーションと個別の状況に応じた柔軟な対応を積極的に進めている点が評価されます。特に、登降園時の細やかな情報共有や、ケガを抱えるこどもへの配慮、突発的な土曜保育への受け入れなどは、小規模園の強みを生かした適切な実践として捉えられます。また、1日1家庭ずつの保育参観への変更や、家庭事情を踏まえた対応など、保護者目線の工夫が随所に見られます。さらに、保護者の悩みを受け止め、必要に応じて個別面談の機会を設けていることは、信頼関係の構築だけでなく、こどもの理解の深化にも寄与しており、保育の質向上に結びついています。こうした取り組みを通して、家庭と園が連携しながらこどもの育ちを支える体制が確実に整いつつあることがうかがえます。一方で、取り組みの成果が職員全体に継続的・体系的に共有される仕組みについては、今後さらに整備が進むことが期待されます。保護者支援の取り組みを園全体の学びとして蓄積し、改善サイクルとして定着させることで、より一層の質向上が図られるものと思われまます。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

一昨年に職員の入替えがあり、職員間の関係が不安定になりやすい状況を課題と捉え、新入職員・在籍職員を問わず、誰もが話しやすく協力できる職場環境の構築を目標としました。クラス配置の固定やシフト調整などをおこない、業務負担や人間関係に配慮した体制を整えました。また、休憩時間を活用して意識的に職員同士のコミュニケーションの機会を増やし、互いを知るきっかけづくりに取り組みました。職員同士が相互理解を深めることで、相手を多面的に捉えられるようになり、協力し合って業務に取り組む姿勢が徐々に定着してきました。クラスの枠を越えた助け合いも増え、職場の雰囲気も安定につながっています。今後は園の目標に沿いながら、それぞれの保育観を尊重し合える関係性をさらに深め、クラスを越えた連携をより一層推進していきます。引き続き、日常の関わりを大切にしながら、安定した組織づくりに活かしていく予定です。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

本取り組みは、職員入れ替えによる不安定さを課題として捉え、「誰もが話しやすく協力しやすい職場づくり」を目標に設定して進めている点が評価できます。クラス配置やシフト調整など、現場の状況に応じた具体的な配慮を行っていることは、職員の心理的安全性の向上につながっており、組織として丁寧に課題へ向き合う姿勢がうかがえます。また、休憩時間を活用したコミュニケーションの促進は、職員同士の関係づくりを自然な形で支える効果があり、結果として相互理解が深まったことは大きな成果といえます。さらに、クラスを越えて助け合う文化が広がっている点も、組織全体の協働性の向上を裏付けるものとなっています。一方で、取り組みが個々の努力に依存している側面も見られるため、今後は園全体で共有できるルールや仕組みとして定着を目指すことで、より持続的な改善が期待できます。また、保育観の違いを尊重しながら統一した方向性を持つための議論の場やフィードバックの仕組みを整えると、さらなる組織力の向上につながると思われます。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページでは、こどもの様子などを掲載し、園の温かい雰囲気を発信しています</p> <p>園ではホームページやリーフレットなどの複数媒体を通じて「見える化」された情報発信に取り組んでいます。法人のホームページには、園児たちの生き生きとした日常が写真やイラストを交えて発信しており、視覚的に分かりやすい工夫もおこなうと共に、園見学の申し込みもできるようにしています。また、外国籍家庭への配慮として、英語や中国語に対応した多言語リーフレットを用意するなど、きめ細やかな情報提供をおこなっています。加えて、園の保育理念を明確に記載し、利用希望者が園を選ぶ上での判断材料として提供しています。</p> <p>見学者が知りたい情報のほか、自治体と連携し必要な情報が収集できるようにしています</p> <p>見学用リーフレットを作成し、保育理念や園での生活の流れ、食に関する考え方、保護者向けのサービスに関する情報などを提供し、見学者が知りたい情報に対応しています。その他、自治体とは、園の情報提供について協力をおこない、連携に取り組んでいます。年に2回程度は、在籍人数などの最新情報を定期的に伝えるとともに、自治体からの要請にも迅速に対応できる運営体制を整えています。また、園紹介のリーフレットを自治体の窓口を設置することで、これから園を探す利用希望者の方々が、必要な情報をいつでも手に取れるよう配慮しています。</p> <p>見学は、「園児とのふれあい」という機会を提供し、雰囲気を感じれるようにしています</p> <p>利用希望者が安心して入園を検討できるよう、見学を通年で受け付け、日程も見学者の都合やニーズに柔軟に応じる体制を整えています。問い合わせや見学対応は園長がおこない、見学者からの質問に対し丁寧に答えています。また、在園児の生活に配慮した上で、見学時には「園児とのふれあい」という体験的な機会を提供しています。見学者は、こどもと一緒に参加することが多く、実際の保育の温かい雰囲気を感じることができるよう配慮しています。加えて、保育理念や大切にしていることも伝え、園の保育の取り組みに対して理解を図っています。</p>		

サブカテゴリ2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ2の講評			
<p>入園の際は、「園のしおり」などで丁寧に説明をおこない保護者から同意を得ています</p> <p>入園にあたり、保護者の状況に応じたきめ細やかな説明をおこなっています。入園説明会や個人面談は一家庭でおこない「園のしおり」や「重要事項説明書」を配布し、内容を読み合わせながら丁寧に周知しています。外国籍で日本語でのコミュニケーションに不安がある保護者には、翻訳アプリを活用して正確な理解を促しています。また、個人情報の取り扱い、写真や動画の撮影に関する同意を個別に確認し、同意が得られなかった場合の対応として、該当するこどもの情報を一覧化し、職員会議を通じて全職員で共有する体制を整えています。</p> <p>入園直後は「慣れ保育」の期間を設け、親子共に安心して過ごせる体制を整えています</p> <p>入園前個人面談で得たこどもの個別情報や保護者の要望は、職員会議で共有し把握に努めています。入園直後は、こどもの不安やストレスを軽減するために「慣れ保育」の期間を設け、こどもが新しい環境に少しずつ馴染めるよう配慮しています。慣れ保育中は保護者対応の担当者を決め、連絡帳や会話を通じてこどもの様子を丁寧に伝えることで、親子共に安心して過ごせる体制を整えています。また、0歳児クラスでは、小さな玩具などは置かないように安全面にも配慮するほか、話すことが難しいこどもの不安を和らげるために、応答的な関りを心がけています。</p> <p>卒園、退園の際は、不安を軽減するための配慮をおこない継続した支援をしています</p> <p>卒園、退園の際は、こどもや保護者の不安を軽減するための配慮をおこなっています。定期的な面談のほか、こどもや保護者に不安な様子が見られた際は、必要に応じて随時面談をおこなう相談体制を整えています。移行後に支援が必要となる場合には、自治体の保育課やこども家庭支援センターなどとの連携体制を整えています。また、お別れ会の開催やメッセージカードの作成をおこない、新たな生活を職員で祝っています。退園や卒園を迎えた後も、いつでも気軽に園へ立ち寄れるような温かな声掛けをし、卒園後も支えとなるような関係性を維持しています。</p>			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	13/13
3	個別状況の記録と計画策定		
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
<b>サブカテゴリー3の講評</b>			
<p>こどもに関する情報や状況を記録で把握し、振り返ると共に課題を明確にしています</p> <p>園では、園児調査票や連絡帳を通じてこどもの心身の状況や生活状況を記録し、園で統一した様式を用いて把握しています。年度末には調査票の内容を確認し、最新の状況を把握するよう努めています。個人面談や送迎時の会話、アンケート等で保護者の意向や課題を丁寧に聞き取り、それぞれのニーズに応じた記録を作成しています。年間、月次、個別の各指導計画は定期的に振り返り、都度見直しをおこなっています。発達記録や健康記録の毎月更新や、進級時には担任間で引き継ぎを実施し、こども一人ひとりの発達段階や課題に合わせた保育を実践しています。</p> <p>各指導計画は、こどもの実態や状況に即した計画を作成し、保育に活かしています</p> <p>法人本部が立案した全体的な計画を基に、こどもの実態に即した年間、月次、週案、日案の指導計画を連動させて作成しています。指導計画は、こども一人ひとりの成長に合わせた計画を担任間で話し合い、柔軟に見直しをおこなっています。配慮が必要なこどもに対しては、巡回指導の助言を参考に個別支援計画を作成し、発達に応じた丁寧な支援を継続しています。指導計画は毎月の振り返りや園が定めた期間で定期的に更新し、こどもの現状の成長を把握した上で次の目標を柔軟に変更するなど、常にこどもの状況に即した保育を実践しています。</p> <p>こどもの状況は、会議やノートを活用し全職員が共有認識に取り組んでいます</p> <p>こどもの日々の変化や保護者からの伝達事項を、職員会議や朝礼、昼礼を通じて全職員で共有しています。共有した内容は保育の方向性を定める共通認識とし、日々の活動に活かしています。一日の流れの中では、職員連絡ノートや申し送り表を活用し、こどもの状況を早番から担任に伝え、さらに遅番職員へと確実に情報を伝えています。議事録は、全員が周知したか確認できるようなサイン欄を設け周知徹底を図っています。また、職員会議では、共有認識を必要とするこどもに関する情報をもとに検討する機会を設け、こども一人ひとりへの理解を深めています。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報の適切な管理と羞恥心への配慮により、こどものプライバシーを尊重しています</p> <p>こどものプライバシー保護について、保育業務における個人情報の取り扱いの基本ルールが定められています。医師や専門の機関との情報交換が必要な場合は、保護者への十分な説明と同意を得る仕組みを整えています。保育においては、こども一人ひとりの持つ羞恥心に配慮した対応をおこなっています。おむつ交換の際には、他のこどもに見られないように個別での交換や、着替えの時も注意を払っています。また、外部から見られないようロールカーテンなどで仕切る工夫をおこなうなど、こどもの気持ちを尊重した配慮を実践しています。</p> <p>個々の生活習慣や価値観を尊重し、こどもに寄り添う丁寧な保育を実践しています</p> <p>「こども一人ひとりを尊重する保育」という考え方が、園内で職員に共有され、日々の保育の基盤となっています。こどものこれまでの生活習慣に配慮した上で保育を実践しており、生活リズムや習慣を大切にしています。また、こどもの名前を呼び捨てにしないよう職員間で統一し、保護者の価値観や生活習慣について理解を示すと共に、こどもの言動を受けとめています。その他、こどもの個性に合わせた活動や、日常の保育の中で、こどもの気持ちに寄り添い、丁寧に話を聞くなど、その子のペースを尊重した保育を実践しています。</p> <p>虐待防止研修やマニュアルの周知を通じて職員間の連携を図り、支援に取り組んでいます</p> <p>虐待や育児困難家庭等の現状・課題の把握について、職員間での共有に取り組んでいます。また、「虐待対応マニュアル」に基づき、不審な点がある場合は職員間で速やかに情報共有する手順を定めています。さらに、それらを職員に浸透させるための取り組みとして虐待防止などに関する研修に参加し、学びを深め、職員間の連携を図っています。加えて、本部からの人権擁護のための情報の周知に努め、必要に応じて困難な状況にある家庭を支援するための専門機関との連携についても、体制を整えています。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(00)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>マニュアルの整備と会議での検討を通じ、保育業務の標準化と共有を図っています</p> <p>園では、統一した書式や手引書により保育業務の標準化を図るために取り組んでいます。職員が日常の保育業務をおこなう上で必要な基本事項、手順、留意点等は、「ぬくもりのおうちマニュアル」として文書化しています。また、安全管理、プライバシー保護、緊急時対応などは、業務の標準化を図るためにマニュアルとして整備し、定期的に会議内でも改善に向けて検討に取り組んでいます。加えて、新しい職員が保育業務でのルールや緊急時対応のための資料にすると共に、職員が不明点を確認する際の指針として、マニュアルを活用しています。</p> <p>マニュアルの読み合わせや適宜更新を通じ、保育業務の標準的な水準を維持しています</p> <p>保育の質の向上をめざし、業務の基本事項や手順について見直しを行う際の更新頻度や基準を園として明確に定め、継続的に業務水準を見直すための仕組みが整っています。保育マニュアルは年に1回、職員と読み合わせの時間を設け、共有に取り組んでいます。また、内容の更新を必要に応じて実施しています。さらに、最新の保育に関する情報や、社会的情報を得た際は、サービスの基本事項に関する改訂や見直しを、法人本部や系列園との間で共有しており、組織全体として業務の標準的な水準を維持しようとする取り組みをおこなっています。</p> <p>職員や保護者の意見を積極的に反映させ、保育の質向上に向けた業務改善を進めています</p> <p>保育業務の基本事項や手順の改定に際しては、職員や保護者の意見を積極的に反映させています。保護者の要望は個人面談等を通じて精査するほか、こどもの様子を改善に繋げる仕組みを構築しています。また、日常の保育業務点検や職員会議、保護者からの声などから、保育現場の実態とニーズを把握し、改善に活かす体制を整えています。具体的な例としては、職員の提案による登降園時の受入れ簿や、保護者の要望を受けた「給食だより」の記載内容の具体化など、職員や保護者の声を取り入れながら質の向上に取り組んでいます。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
	○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	●非該当
評価項目1の講評			
<p>個々の発達や興味を把握し、主体的に関われる環境作りでこどもの成長を支えています</p> <p>園では、こどもの発達過程や生活環境を園児調査票に記録し、全体的な姿を捉えた保育を実践しています。こどもの興味や関心、得意不得意を丁寧に観察することで、子ども一人ひとりの状況に合わせた学びの機会を提供しています。また、個別指導計画や連絡帳を活用し、家庭との連携を図りながら成長を支える体制を整えています。職員は、こどもの成長段階に応じて絵本や玩具を入れ替えるなど、周囲の人や物事に主体的に関われる環境を工夫すると共に、個別指導計画に基づき、こどもが自ら動き出せるような環境作りに取り組んでいます。</p> <p>異文化や異年齢の関わりを通じ、こどもの発達に合わせ尊重し合う心を育んでいます</p> <p>子ども同士が年齢や文化、習慣の違いを認め合い、互いを尊重する心を育むための配慮をこどもの発達に合わせておこなっています。外国の文化や日本各地の習慣に触れる機会として、絵本や紙芝居の読み聞かせを取り入れるなどの工夫をおこなっています。また、異年齢での関わり方や言葉の使い方を丁寧に伝えることで、子ども同士の交流を支えています。実践したことは、月次指導計画や週案、日案に記録し、振り返りをおこなっています。異年齢の関りができる環境を整えていき、こどもたちが互いの個性を自然に受け入れられるよう心がけています。</p> <p>同じ空間で共に過ごす時間を大切に、関わりを通じて他者を思いやる心を育んでいます</p> <p>年齢の違いや、配慮が必要な子どもが他の子どもと同じ空間で時間を過ごすことを大切にしています。共に遊び、食事をするといった日常の活動を通じ、互いに成長できる環境を整えています。また、発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対しては、それぞれの気持ちに寄り添い、こどもの思いを捉えながら言葉にする手助けをしています。さらに、年齢や発達に合わせた対応を心がけ、こども自身が相手の思いや気持ちに気づき、他者を思いやる心を育む土台を築く支援に取り組んでおり、関わりや援助の様子は保育日誌に記録しています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時の丁寧な対話を通じて家庭と連携し、こどもの生活リズムと成長を支えています</p> <p>登園時に保護者へ聞き取りをおこない、こどもの健康状態や機嫌、家庭での様子を確認しています。体調の変化だけでなく、家庭での出来事や成長の様子、興味・関心があることなどを把握し、一人ひとりの生活の連続性に配慮した保育につなげています。降園時には、その日の健康状態に加えて、園での活動の中で印象的だった出来事や、こどもの小さな成長、発見したことを保護者一人ひとりに直接伝えています。保護者に伝える情報は受入れ簿に記録し、園と家庭でこどもの状況の共有に取り組んでいます。</p> <p>成長段階に合わせた援助や、こどもとの関りを工夫し基本的な生活習慣を伝えています</p> <p>各指導計画を基に、こどもの成長段階や「自分でできること」に合わせた無理のない援助をおこなっています。食事面ではスプーンや箸の持ち方、マナーを教え、生活面ではトイレトレーニング、着替え、手洗いなどの大切さを丁寧に伝えています。これらの習慣を伝える際には、絵本や紙芝居の活用や、こどもが意欲的に取り組めるよう声のかけ方などを工夫しています。また、0歳児から一人でやってみたい意欲を尊重し、さりげない援助を心がけています。加えて、実践の記録として指導計画に反映し、こどもの次なる成長につなげています。</p> <p>個々の状況に応じた休息時間の調整をおこない、健やかな生活リズムを支えています</p> <p>こども一人ひとりの健康状態や生活背景を考慮し、昼寝の時間を調整しています。0歳児は、こどもの体調やリズムに合わせて、午前寝、夕寝など臨機応変に対応しています。また、無理に寝かせたり起こしたりすることはせず、個々の状況に寄り添った配慮をおこなっています。早く目が覚めてしまったこどもには、静かに絵本を読む時間を設けることで、まだ眠っているこどもを起こさないよう工夫し、全員が十分な休息を確保できる環境を整えています。その他、疲れが出やすい夕方の時間帯は、ゆったりと過ごせる環境や雰囲気づくりに配慮しています。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>こどもの自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間を確保して主体的な活動を支えています</p> <p>こども自身の意思で遊びを選び、遊び方を考える過程を大切に受け止めることで、自発性を尊重しています。遊びを途中で中断させたり次の活動を急かしたりせず、こどもが納得するまで十分に遊びこめる時間を確保しています。また、自由に使えるスペースや興味を引く玩具、素材を配置し、環境面からも遊びの広がりを支えています。集団活動においては、こどもが自らの意思で参加できるよう、きっかけ作りなどの援助をおこなっています。集団に入ることが難しいこどもには、職員が寄り添いながら無理なく参加できるよう援助しています。</p> <p>応答的な関わりで言葉への感覚を養い、表現活動を通じ遊びの幅を広げています</p> <p>言葉を十分に発することが難しい時期のこどもに対して、微笑み返したり応答的に話しかけたりすることで、言葉が持つ音やリズムに触れる機会を作っています。こどもの発達段階や個性を尊重し、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な関わりを各指導計画に基づき実践しています。また、歌や製作活動など、年齢に応じた表現を楽しめる環境を整えています。その時の興味に合わせ、こども自らが発した自由な表現が遊びとして広がるように援助しています。職員は、こどもの発信に寄り添う丁寧な対話と、感性を豊かに育む幅広い実践に取り組んでいます。</p> <p>戸外では自然に触れる機会を設け、遊びのなかで気持ちを整える力を育てています</p> <p>四季を通じて公園や園周辺の散歩などに積極的に出かけ、草花や虫などに触れながら、季節の変化を五感で体験できる機会を設けています。職員は、季節に関する言葉掛けを発達に応じておこない、こどもの自然への興味や関心を高めています。その他、集団生活の中では、玩具の貸し借りや順番を守る体験を通じ、こども自らがきまりを理解できるよう働きかけています。自分の気持ちを調整することが難しい場面では、保育者がその思いを丁寧に言葉にして代弁しています。適切な声掛けで、こどもが自ら気持ちを立て直せるよう援助しています。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>日常の遊びを行事へとつなげる工夫をおこない、子どもが興味を持てるようにしています</p> <p>日常の保育に変化と潤いをもたせるため、子どもの興味や関心に基づいた行事を実施しています。行事を特別なものとして実施するのではなく、普段の遊びの中から自然に取り入れ、無理なく行事へとつなげています。子どもが自ら進んで取り組めるよう、日々の活動の延長線上で行事計画を立てています。0歳児から2歳児の発達段階を考慮し、集団での活動が子どもの負担にならないよう配慮しながら、主体的な参加を促すきっかけ作りを行っています。日常の遊びを大切に育み、子どもたちが楽しみながら行事に関われる環境を整えています。</p> <p>ねらいに基づいた行事を実施し、楽しかった行事の余韻を味わえる環境を整えています</p> <p>行事の実施にあたっては、ねらいに基づき、夏祭りや保育参観などの行事を実施しています。園では、行事が日々の保育の延長線上にあるものと考え、子どもの成長を保護者の皆様と共に喜び、分かち合う大切な機会と捉えています。また、乳幼児期の発達には個人差があるため、集団に入ることが難しい子どもには、職員が寄り添い安心感の中で、無理なく行事の活動を楽しめるよう援助しています。さらに、行事当日だけでなく、行事後も余韻を味わえる環境を構成し、楽しかった思い出を振り返ることで次の成長につなげられるよう配慮をおこなっています。</p> <p>行事の積み重ねで子どもの成長の過程を喜び、保護者と共に豊かな感性を育てています</p> <p>園では、毎年の行事の積み重ねを、子どもの成長の過程として捉えています。昨年度の姿と比較することで、手作りの衣装を自ら着用できるようになったり、友達の製作作品に興味を示したりといった、日々の生活の中にある成長の変化を職員と保護者が共に喜び合っています。また、七夕の行事において親子で短冊に願いを込める活動を取り入れるなど、日本の伝統文化を大切にすることを育む機会を設けています。行事を通し、園と家庭が一体となって成長を見守る環境を整え、豊かな感性を育てるように日々の成長を支えています。</p>			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当	
評価項目5の講評			
<p>長い保育時間でも、子どもが自分のペースで安心して過ごせる環境を整えています</p> <p>園では、保育時間が長い子どもが心身ともに安らげるよう、日々の活動に配慮しています。自由遊びの時間を十分に確保することで、子どもが自分のペースで過ごせる環境を整えています。また、0歳児から1歳児のクラスでは緩やかな担当制保育を導入し、特定の職員が一人ひとりの子どもと愛着関係を深めながら、じっくり関わる時間を設けています。人数が減った時間帯には、0歳児クラスなどの落ち着いた空間へ移動してゆったりと過ごす工夫を取り入れるなど、子どもが安心感を持って園生活を送れるよう環境を整えています。</p> <p>保育形態の変化に合わせ、子どもの心身の状況に応じたきめ細やかな援助をしています</p> <p>朝や夕方などの保育形態が変化する時間帯においても、子どもが楽しく過ごせる工夫に取り組んでいます。異年齢の子どもたちが一緒に楽しめるよう、絵本の読み聞かせや新聞を使った素材遊びなどの活動を柔軟に取り入れています。活動の中で疲れが見える子どもには、静かに過ごせるスペースを用意し、休息できる環境を確保しています。また、職員は子ども一人ひとりとじっくり向き合う時間を大切に、個別の関りを通じて情緒の安定を図ると共に、長時間の保育においても子どもが主体的に活動できるようにしています。</p>			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>こどもが落ち着いて食事をとれる環境を整え、食べる意欲と成長を支援しています</p> <p>こどもが楽しく落ち着いて食事をとれるよう、一人ひとりの状況に合わせた配慮を行っています。食事の切り替え時には、次の行動を促す優しい声掛けをおこない、こどもの食べる意欲につなげています。調理員が毎日の喫食状況を直接確認し、献立作成や調理に反映させています。旬の食材や特別メニューを取り入れ、彩り豊かな盛り付けや行事に応じた飾り切りを行うなど、こどもが喜び、視覚的にも食欲をそそる工夫を凝らしています。発達段階に応じて食材の硬さや切り方を調整し、安全でおいしく食べられる食事の提供をおこなっています。</p> <p>こどもの発達や体調に寄り添い、安全で細やかな配慮に基づいた食事を提供しています</p> <p>こども一人ひとりの月齢や発達状況に合わせ、離乳食の硬さや食材の種類を調整して提供しています。介助の際は丁寧な声かけを心がけ、自分で食べようとする気持ちを尊重して食具の使い方を伝えています。食欲がない等の体調の変化に応じ、味付けや調理法を柔軟に変更しています。食物アレルギーに対しては、原因食材を完全に除去した代替食を提供しています。配膳時は複数名でダブルチェックを行い、専用のトレイや食器を使用することで誤食防止を徹底しています。保護者とは定期的に情報交換をおこない、状況に合わせた対応へと更新しています。</p> <p>食育を通じてこどもの食への関心を高め、家庭との連携で豊かな食に繋げています</p> <p>こどもが食材に触れながら、食への関心を高める取り組みをおこなっています。過去には豆苗の栽培やバナナの色の変化を観察するなど、こどもの興味を惹きつける食育に取り組んでいます。また、1・2歳児は、きのこの房分けやトウモロコシの皮むきなどの調理体験に参加しています。食事のマナーについても伝え、食育計画に基づいて実践しています。給食の様子や食育の取り組みは、連絡帳などを通じて保護者へ伝えています。また、家庭での食事の参考になるよう鮭チャーハンなどのレシピ情報も提供し、保護者と協力してこどもの食生活を支えています。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>こどもの健やかな心身の成長を支えると共に、安全な環境づくりを実践しています</p> <p>乳幼児期における身体の調子を整えるため、毎日の検温や手洗いの習慣化を優しく促しています。また、発達段階に応じた言葉かけをおこない、手洗いやうがい、トイレの使い方など保健計画書に基づいて各クラスで定期的におこなっています。事故防止に向けては、乳幼児特有の動きに留意したヒヤリハットの収集と集計をおこない、職員会議で周知することで再発防止に努めています。職員は、日々の生活や丁寧な援助を通じて、こどもが安心して過ごせる環境を整え、健康で安全に過ごすための意識を育みながら心身の健康維持を支えています。</p> <p>嘱託医や専門機関などと連携し、こどもの健康と安全を守る体制を整えています</p> <p>嘱託医とは、年に2回の定期健診や年1回の歯科健診を計画的に実施し、こどもの健康状態の把握に取り組んでいます。また、日常の怪我などで受診が必要と判断した際も、直ちに受診できる迅速な対応体制を整えています。そのほか、医療的な配慮が必要なこどもが在園する際には、保護者と個別の面談を丁寧におこない、具体的な配慮点を詳細に確認しています。さらに、対応が必要な場合は、専門の医療機関と迅速に連携がとれるように体制を整えており、こどもの心身の健康と安全を最優先に考えた支援に努めています。</p> <p>保護者と密に連携し、こどもの衛生に関する生活習慣や健康維持に取り組んでいます</p> <p>こどもの健康状態や体調の変化について、保護者と日々情報を共有しています。家庭でも手洗いやうがいなどの基本的な衛生習慣を身につけ、規則正しい生活リズムを整える大切さを保護者に伝えています。乳幼児突然死症候群に関しては、入園時の説明や玄関掲示による注意喚起に努めています。また、身体測定の結果は連絡アプリを活用して報告し、医師からの助言がある際は直接口頭で詳細を伝えるなど丁寧な連携をおこなっています。職員は、園児調査票に基づき個別の健康状況を把握し、保護者と協力してこどもの健康維持に取り組んでいます。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の事情に寄り添った支援と、保護者同士の交流機会の提供を柔軟に設けています</b>          保護者の就労状況に合わせた柔軟な支援と、保護者同士が交流できる場を定期的に設けています。園では、仕事終わりの夕方の時間でも相談できる機会を設け、一人ひとりの個別事情に寄り添った対応をおこなっています。さらに、夏まつりや卒園のお別れ会などの行事を通じて、保護者同士が関わりを持てる機会を設けています。日々の送迎時間においても、顔を合わせる保護者同士の自然なコミュニケーションが図られています。職員は、これらの取り組みを通じ、保護者が安心して子育てと仕事を両立できる環境を整えています。</p> <p><b>保護者との信頼関係を深め、成長の喜びを分かち合う丁寧な支援を実践しています</b>          連絡帳やアプリを活用し、保護者と園でのこどもの様子を共有しています。日々の送迎時には、こどもの成長や出来事を丁寧に伝え、保護者と喜びを分かち合うよう心がけています。また、気軽に話せる時間を作ったり、定期的な個人面談を実施したりして、こどもに関する対話の場を設けています。発達段階については保育士の専門的な知識を分かりやすく説明し、保護者の理解を深めるよう努めています。家庭で実践できる子育てのヒントを伝え、悩みについても共に考え、園での様子をアプリで配信するなど、共通認識を得るよう取り組んでいます。</p> <p><b>園は、保育参観や行事を通じて園の活動への理解を深め保護者の養育力を支援しています</b>          保護者が園での活動を深く理解できるよう、行事や保育参観・参加への積極的な参加を促しています。0歳児は変装してこどもの自然な様子を見学する参観スタイル、1歳児以上は保育士と一緒に活動を見守る参加スタイルを取り入れています。保護者は実際の園でのこどもの姿を直接見ることで、職員の声掛けや関わり方、集団生活の様子を知る機会を得ています。園は保護者の養育力向上に向けて、日々の保育活動への理解を深める取り組みを大切にしており、保育現場での実体験を通じて、保護者と連携してこどもの育ちを見守るための支援を実践しています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>公園を活用し、近隣の方との挨拶を通じながら生活の幅を広げる取り組みをしています</b>          園は、年間を通じて近隣の公園を活用し、こどもが多様な体験を得られる機会を設けています。散歩や戸外活動の際には、地域の方々と積極的に挨拶を交わすことで交流を図っています。また、交番の警察官とも挨拶を交わし、地域社会を身近に感じられるよう工夫しています。加えて、近隣の散歩ルートの見直しをおこない、環境の変化に合わせて安全に活動できるよう配慮に努めています。日々の戸外活動や地域との関わりを通じて、こどもが周囲の環境に興味を持ち、社会性を育みながら生活の幅を広げるための支援を実践しています。</p> <p><b>学生などの多様な世代との交流を通じて、こどもの社会性を育む支援に取り組んでいます</b>          園は、こどもが職員以外の多様な人と交流できる機会を設けています。高校生の職業体験や実習生の受け入れを定期的におこなっており、学生が用意した遊びを共に楽しむなど、世代を超えた関わりを設けています。また、ハロウィンなどの行事を通じて地域社会に親しみ取り組みをおこなっています。今後の展開として、嘱託医とは定期健診だけでなく、日常的な交流を持つことで、より身近に感じられる機会を検討しています。職員は、地域の身近な人々との繋がりを通じて、こどもの社会性を育む支援に取り組んでいます。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	見学時には、保護者が負担なく安心して園に預けられることを丁寧に伝えています	
内容①	法人の設立理念である「働く保護者を応援する」という想いを軸に、保護者が負担なく安心して園に預けられる支援をおこなっています。初めて保育園を利用する保護者などに対しては、入園前の見学時から、園の保育理念、保育目標を丁寧に伝え、理解を図ることに力を入れています。配慮点としては、見学を1組に限定し、加えて見学時間を夕方を設定することで、園の子どもたちが自由に過ごし、好きな遊びを楽しむ日常の様子を身近で感じられるようにしています。また、園生活での質問や育児に関することに丁寧に答え、入園後の安心感に繋げています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保育参観・参加を通し、子どもの成長を保護者と共に感じられるように取り組んでいます	
内容②	園では「子どもの成長を保護者と丁寧に分かち合いたい」という想いから、保育参観・参加を「1日1家庭限定」で実施しています。この個別設定により、保護者は周囲に気兼ねすることなく、わが子のありのままの姿や成長の様子などを感じることができます。また、参観型や一緒に活動する参加型など、各家庭の希望やスタイルに合わせた柔軟な対応をしています。この取り組みは、保育者と保護者が共に手を取り合う「子育てのパートナー」として信頼関係を築く貴重な機会となっており、園全体で子どもの健やかな育ちを支える基盤となっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	職員同士の相互理解と助け合いを促す職場づくりに取り組んでいます	
内容③	新入職員・在籍職員を問わず、誰もが話しやすく協力し合える職場環境の構築に注力しています。新入職員に対しては、クラス配置の固定やシフト調整を工夫し、個々の業務負担や人間関係に配慮した体制を整えました。さらに、休憩時間を活用して職員同士が気軽に交流できるよう働きかけ、日常的にコミュニケーションの機会を増やしています。こうした取り組みにより、互いの考え方や価値観を多面的に理解し合う姿勢が育まれ、協力的な風土が徐々に定着しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	こどもの心に寄り添う丁寧な関わりで発達を支え、家庭的な環境のもとで保護者と園が一つになって支え合う保育を実践しています
	内容	保育方針に掲げる「こども一人ひとりの主体性や発達、個々の思いを尊重し、自ら歩む力を信じて見守る保育」を実践しています。小規模園の特性を活かした家庭的な環境下で、職員間の連携により個別の支援を充実させるとともに、安全管理を徹底し、こどもが自己肯定感を持って過ごせる場を提供しています。また、信頼関係の土台となる温かい関わりで、情緒の安定を図る環境を整えています。保護者に対しては、日々の様子を丁寧に伝えることで円滑なコミュニケーションを図り、「共に子育てをするパートナー」として信頼関係の構築に努めています。
2	タイトル	小規模園の特性を活かした柔軟な連携と温かな見守りにより、こども一人ひとりの成長を丁寧に支える保育を実践しています
	内容	園の大きな特長としては、小規模園の特性を最大限に活かし、クラスの壁を取り払った柔軟な保育体制を構築しています。職員一人ひとりが「こども全員の担任」という意識を共有し、園全体を見渡しながら互いに連携することで、こどもの状況に応じた臨機応変な対応を可能にしています。この家庭的な環境下での職員による安定した見守りと温かい関わりが、こどもの自己肯定感を育み、情緒の安定に寄与しています。職員は、園生活の中でこどもとの信頼関係を積み重ね、一人ひとりに寄り添い、柔軟かつ丁寧にこどもの成長を支える保育を実践しています。
3	タイトル	職員の声を保育の質向上に継続的に反映できる体制作りに取り組んでいます
	内容	職員会議や毎月の個人面談、日常のコミュニケーションを通じて職員の意見や要望を丁寧に把握し、申し送りなどで共有・検討しています。その結果「怪我などで配慮が必要な状況が生じた際は、固定のクラス枠にとらわれず受け入れる」など、職員の提案をもとにした柔軟な支援につながっています。また、休憩時間を利用して交流を促すことで、話しやすい雰囲気づくりにも取り組んでいます。このように、職員の声を保育の質向上に継続的に反映できる体制作りに取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中期計画と単年度計画の連動性を高めるとともに、計画の進捗状況を定期的に確認する仕組みづくりに取り組む余地が認められます
	内容	3カ年の中期計画を作成し、園児充足率や職員定着率、保護者満足度などのKPI(重要達成指標)を設定しています。また、事業計画の作成時には環境分析を取り入れ、年度末には振り返りをおこない、次年度の改善につなげています。一方で、中期計画と単年度計画との具体的な連動が十分とはいえず、計画に基づく行動内容が必ずしも明確に整理されていない状況が見受けられます。今後は、中期計画と単年度計画の連動性を高めるとともに、年度途中での進捗確認や計画の柔軟な見直しをおこなう仕組みづくりに取り組む余地が認められます。
2	タイトル	嘱託医と勤労感謝の行事などで関わりを持つなど、地域との関係性をより深めていくことを目指しています
	内容	地域の行事ポスターを園内に掲示し、保護者が地域活動に参加しやすいよう情報提供をおこなっています。また、園長会や児童対策地域協議会などに参加し、地域の福祉課題や支援ニーズに関する情報収集にも取り組んでいます。子育て支援事業は実施していませんが、保護者からの子育て相談には随時対応し、家庭支援の一助としています。一方で、今後は、地域資源をより積極的に活用し、保育の幅を広げていく必要性を捉えています。例えば、嘱託医と勤労感謝の行事などで関わりを持つなど、地域との関係性をより深めていくことを目指しています。
3	タイトル	職員一人ひとりの成長段階に応じた育成の道筋を明確にすることに加え、計画的な研修体制の構築に取り組むことが期待されます
	内容	職員の募集についてはSNSやホームページを活用して、求める人物像や保育理念、制度などを発信し、採用の幅を広げる取り組みを進めています。また、全職員を対象に異動希望調査を実施し、法人本部と調整したうえで適切な人員配置に努めています。一方で、キャリアパスが明文化されておらず、職員個別の研修計画も作成されていません。今後は、職員一人ひとりの成長段階に応じた育成の道筋を明確にすることに加え、計画的な研修体制の構築に取り組むことが期待されます。